

町長と語るタウンミーティング 議事録(概要)

日 時：令和 8 年 4 月 15 日(水) 19：00～20：15

場 所：稲美町立コミュニティセンター ホール(役場新館 4 階)

テーマ：令和 8 年度の主要施策

参加者：4 人(うち、子ども 0 人)

【司会】

ただいまから町長と語るタウンミーティングを開催させていただきます。

このタウンミーティングは、稲美町の今後のまちづくりについて、住民の皆さんと町長が直接意見交換を行う場として設けさせていただいている。今回のテーマは、「令和 8 年度の主要施策」。活発な意見交換ができればと考えている。

【町長】

今日は本当にお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。このタウンミーティングは、年間 4 回ぐらいテーマを決めながら、住民の皆さんに私の思っていることをお伝えし、逆に皆さんが思っていることをお聞かせいただく、私にとっては大変貴重な場です。どうぞよろしくお願ひします。

本日の資料のタイトルは、総合計画の基本理念「ともにつくる 未来につなぐ 稲美町」です。背景は、稲美町の草谷川周辺の芝桜で、まさに住民の皆さんとともにつくるという象徴で、一本一本芝桜を植えて堤に広がっている。稲美町の名所であり、ちょうど今週末ぐらいが見頃だと思うので、芝桜を背景にさせていただきました。

まず、町政で皆さんの関心があるのは人口だと思う。昨年、稲美町は 70 周年を迎えた。稲美町が合併したときから高度経済成長期まで人口は伸び続けてきた。平成 16 年、17 年が約 32,000 人でピークを迎え、それから少しずつ減ってきた。全国的に減少傾向ではあるが、稲美町は幸い転入の方も多く、微減となっている。

稲美町の人口の推移を見てみると、第一次ベビーブーム、ちょうど私が第二次ベビーブーム世代、点線で囲った部分が第三次ベビーブームで私の子どもぐらいの世代である。第三次ベビーブームの子どもの人数は多いが、第四次ベビーブームの傾向は全国的にも生まれていない。

稲美町の令和 8 年 3 月 31 日現在の人口は、30,281 人で、内訳は 0 歳から 14 歳が 3,684 人、15 歳から 64 歳が 16,722 人、65 歳以上が 9,875 人、高齢化率が 32.6%となっている。稲美町は全国と比べると少し高齢化率が高い。

次に、生まれてくる赤ちゃんは、年間約 170 人で、200 人を下回っている。一番人口が多い年代が 77 歳ぐらいのいわゆる団塊の世代で、次に多いのが 50 歳台。

ちなみに、稲美町には 100 歳以上の方もいらっしゃる。先日 100 歳のお祝いでお伺いしたご夫婦は、ご主人が 102 歳、奥様が 100 歳であった。ご夫婦で 100 歳以上というのは町内では珍しく、県内でも 5 組しかいらっしゃらない。

次に、稲美町の令和元年から 7 年までの人口動態の表を見てみると、令和 2 年のみ転出が転入を上回り、社会増減がマイナスになっているが、それ以外は基本的に転入が上回っている。もちろん、高校、大学、就職等で転出される方も多くいらっしゃるが、稲美町に家を買って定住される方の人数が多く、社会増の傾向にある。これは、さまざまな土地利用の制度や、一度転出した方が稲美町に帰って来られ、家を建てられる際に補助金が出る親元近居住宅取得等支援補助金を利用される方が増えている。私は、親元で働きながら子育てもした。両親には子育てで大変助けてもらった。もう子ども達は大きくなったが、逆に親世代は介護が必要になってきている。子育ての恩返しになるか分からないが、親元の近くに住むことがお互いのメリットになると思う。

ただ、出生と死亡でいうと、約 200 人弱の赤ちゃんが生まれる一方で、お亡くなりになる方が倍ぐらいである。死亡が約 400 人弱で推移していたが、令和 6 年が 441 人で突出している。原因は不明であるが、令和 2 年から 5 年にかけてコロナ感染症の影響で、お年寄り等が社会との繋がりが希薄になり、足腰が弱り、免疫も下がり、死亡者が増えたのではないかと推測する。そういった状況で、社会増より自然減が上回り、その分だけ総人口が減っている。

次に、土地利用の話であるが、稲美町では市街化調整区域でも家が建てられるような仕組みを作っている。稲美町は都会にも近いし、ちょっとのんびりしたような、そういうちょうどいい環境で子育てをしたいという方が、大勢いらっしゃる。ただ、なかなか家を探しても、すぐに建てられないこともあり、少しでもそのマッチングを解消しながら、家が建てられる仕組みを進めている。

次に、人口ビジョンであるが、2060 年までに人口が 2 万人くらいまで減少すると予想されている。しかし、直近の令和 7 年で推計人口が 29,415 人で、現在は 30,281 人であるので、予想よりも減少カーブが緩やかになっている。

次に、予算の話であるが、令和 8 年度一般会計予算は 139 億円。令和 7 年度は 131 億円で、大幅な予算増にはなっているが、インフラ、小中学校や公共施設の老朽化対策にかかる費用や、高齢者や障がい者の施策を充実させるための福祉的な予算が毎年増えている。これらは、今後もなかなか下がることはなく、歳出はどんどん膨らんでいる。ただ、歳入も合わせて増えている。昔は子どもの数が多かったが、現在は高齢者を含めて働いている大人が増えているため、労働人口が増えることで税収は増えている。現段階では、歳入も歳出も増

え続けている。

ここからは、お配りした 4 月広報に掲載している新規事業や拡充事業の主要施策についてお話をさせていただく。皆さんが気になる施策があれば説明させていただくが、もしよければ私のおすすめをピックアップした施策を説明させていただく。

1 つ目は物価高対策として、赤ちゃんから高齢者まで、1 人 1 万円の地域振興商品券を 5 月の中旬頃にお送りする。

2 つ目は、水道の基本料金 6 か月分、7,590 円を減免させていただく。こちらは申請不要で減免させていただくので、料金明細書を見ていただければと思う。

なお、お話ししたこの 2 つは、市町村によって全くやり方が違う。一時話題になったお米券を配る市町村もあるが、稲美町は商品券にさせていただいた。また、水道基本料金の減免以外の別の方法で還元されている市町村もあるが、基本的に誰にも等しく物価高対策を行っている。

次に、農業に関することです。

昨今、毎年のように最高気温が更新されている。農家の皆さんも悲鳴を上げておられ、夏には作物が作れないほど大変な状況になっている。町としては、ハウス栽培をされている施設園芸農家限定で暑熱対策として、設備を導入される場合に補助金を交付することで支援していく。夏場でも特産品である野菜を住民の皆さんにお届けし続けるために、今年度から 3 年間かけて補助させていただく。

次に、教育に関することです。

ご承知のとおり、国が小学校給食の無償化を掲げたので、稲美町の学校給食も無償化とする。皆さんは稲美町の学校給食を食べたことはありますか。昨年も実施したが、今年も学校給食を食べながら、学校給食のお話をするタウンミーティングを予定している。この給食のタウンミーティングは、事前予約が必要で、給食代として 310 円をいただいている。子ども達が食べている給食と同じものを食べてもらいながら、稲美町のすばらしい学校給食についてお話をする機会を設けている。

このたび、小学校給食が無償化になったが、国からの補助額は、1 人当たり月 5,200 円程度。1 日あたり 260 円程度となるが、現在の稲美町の小学校給食の単価は 310 円であるので、差し引き 50 円の差が生じる。しかしながら、大切な子どもたちの食を守るため、差額 50 円を保護者負担ではなく町が負担し、安全安心な学校給食を続けていく。また、「稲美町の学校給食がおいしい」「稲美町で子育てをしたい」という方もいらっしゃるぐらい、県下でも有名になっているので、ぜひ小学校給食の無償化は続けていきたい。中学校に関しては、まだ学校給食の無償化はできていないが、1 食あたり 360 円かかるところ、ご家庭の負担は 1 食あたり 290 円。物価高の影響もあるが、物価高騰前の負担額据え置きで、いいものをし

っかり提供させていただく。中学校給食で言うと、年間で生徒 1 人当たり約 2 万円を町が補助している。

次に、スポーツ面では、まもなく稲美中央公園の中に、スケートボードパークやバスケットボールコートが完成する。子どもたちがいつでもスケートボードやバスケットボールをできるよう、しっかりしたものを作っている。オリンピック種目にもなったスケートボードで、稲美町出身の高校 1 年生の大西七海さんという世界で活躍するトップ選手がいらっしゃる。町内で練習をし、次のロサンゼルスオリンピックで活躍してほしいところ。

また、先ほど暑さのお話をしたが、小中学校の体育館にエアコンを設置していきたいと考えている。体育館は、子どもたちの学ぶ環境だけでなく、災害時の避難所にもなる。また、リスク分散のため、エアコンはガス式と電気式の 2 種類の設計となっている。災害はない方がいいが、子どもたちの学習環境もこれで良くなるのではないかと思う。ピックアップした説明は以上となる。

【参加者】

物価高対策で商品券や水道代の減免はありがたい。地元のシニアクラブの中で最近話題になっているのが、高齢者の中には無年金で生活保護を受けていたり、シングルマザーの家庭で子どもに障がいがあり、すごくお金がかかるなど、世帯収入の差が目立っている。そういう物価高で困っている人たちへスポットを当てて手厚い補助を行ってほしいと思う。

【町長】

一番困っている人に手厚く支援していくということは、まさに民主主義の考え方。今までは住民税非課税世帯へ支援してきたが、今回に関しては全国民が物価高で困っている状況であるので、すべての人へ平等に支援させていただいた。物価高対策以外にも、例えば減免制度であるとか、福祉サービスの利用料を下げるような制度はあるので、そういう別の施策も使いながら今後も支援していきたい。

【参加者】

新宅を増やすことが人口を増やす一番の方法だと思う。自分の土地に新宅を構え、子どもを作ることで人口を増やしていくことを考えていくべきだと思う。

【町長】

今まさに土地利用計画を策定し、田園集落まちづくりを進めている。これまで自治会ごとに県の許可の基で実施しており、稲美町で自由にできなかったが、県が一定程度認める制度を活用すれば、市街化調整区域であっても、新宅が建てられる。ただ、圃場整備をした田ん

ぼは、農振除外をしないといけないため、ハードルが高い。調整区域の中でも、家が建てられる範囲を、明確にわかるように地図上で整理し、稲美町で生まれ育った方が自分の土地がなくても、買って家を建てられる仕組みづくりをやっている。稲美町に家を建てたくても建てられないから、他の市町で家を建てての人が多かったが、生まれ育った稲美町に家が建てられることができるような制度を、今まさに作っているのでぜひ活用していただきたい。

【参加者】

稲美町はとても魅力ある自慢の町で、町内のイベントにも参加させていただいている。先ほどのお話にもあったが、経済的に困窮されている方が車を所有できないという話を聞いた。町内でカーシェアができれば、車を持ってなくても、借りることができれば、町内でイベントに行ったりおいしいもの食べに行くことができる。業者が手を挙げてカーシェアできる場所をお借りすることができればいいが。町内のどこかに1台でもあったら助かる人がいると思う。乗り合いタクシー等の事業は確かにあるが、用途に関係なく安いカーシェアであればニーズはあると思う。

【町長】

車を持っていないのであれば、バスやタクシーを利用いただくという発想であった。車は減価償却等を全て含めて年間約25万程度の経費がかかっている。車は保持できないが安く借りたい方はいらっしゃるかもしれない。

【参加者】

孤立孤独の高齢者や老老介護をなさっているようなご高齢の方が稲美町にも多いと思う。徘徊して家に帰れない方をキャッチングするようなSOSネットワーク登録制度が稲美町でもあると思うが、そういった情報がなかなか届かない。みんなで情報共有できれば、少しでも早く助けられると思う。

【町長】

町内全域107か所に見守りカメラを設置した。令和8年度にも約70台を追加設置する予定である。見守りカメラからは微弱な電波が出ており、そこを見守りタグを持つ子ども達や認知症高齢者の方が通過されると、家族のスマホに情報が届くような仕組みとなっているので、ぜひ活用していただきたい。ただ、このようないい制度があることをまだ知らない方がたくさんいらっしゃる。ケアマネージャーさんや民生委員さん、また自治会等へしっかり周知し、広まっていけばいいと思う。

【参加者】

この見守りタグは、1カ月いくらくらいかかるか。

【町長】

小学校1年生と認知症高齢者は、無料でご利用いただける。

【参加者】

私は広報紙等の町のパンフレットや冊子が好きで、できるだけくまなく見ている。この広報紙がどれくらいの方が手に取って見られているか。行政のさまざまな制度は申請主義であるので、たくさんの方が見てもらえるツールを増やしていただきたい。

【町長】

現在、稲美町史の加古編を編さんしている。戦前戦後ぐらいのことなど、皆さんが懐かしいと思うようなところも含めてたくさん収録して、編さんしているところであるので、ぜひ見ていただきたい。

【参加者】

ある会議に参加した際、役場の方は住民のために一生懸命動いてくれていることを知った。役場の方は質問されたことに親身になって答え、自分のミッションのもと働いておられる姿を見た。このことをもっと住民の皆さんへPRできれば、もう少しいい循環になると思う。若者世代はPRがうまく、外に見せるのが上手だと思う。若者がSNSを使って情報を発信し、拡散してくれる方法があればいいと思う。若者を対象にしたタウンミーティングもあればいいと思う。できればボランティアではなく、出席した若者へ稲美町の商品券を配るなどの対価があれば、たくさん来てくれると思うし、商品券を使って買い物してくれたら経済にもよい影響を与えられると思う。

【町長】

昨年はこども議会を開催したが、高校生や大学生世代の声も聞く機会を設けてみたい。まちづくりや政治というとあまり興味関心がないかもしれないが、先ほどのお話のとおり自分自身に関係があることだと伝わるのではないかと思う。

【参加者】

令和8年度の町の施策を見て、若者に向けた施策が多いと感じた。選挙や政治では年齢の高い有権者が喜ぶ施策が多いイメージであった。今日この場におられるご年配のお二人が、若い人に稲美町に住んでもらえるために何かできることはないかとおっしゃる言葉を聞いて感動した。

【町長】

ここ最近、若い世代向けの施策にシフトしている部分はあるが、もちろん全世代向けの

施策も考えている。

【参加者】

私の自治会では、昨年11月頃、若者2人の協力のもとデジタルの回覧板を取り入れた。現在の登録者は全世帯の3分の2程度ではあるが、今後全世帯が登録することを目指している。ただ、ご高齢の方もいるので、紙の回覧板も残っている。デジタルの活用は、緊急に伝えたい内容があった場合に、すぐに連絡ができて便利で助かっている。

【町長】

若者だけでなく、ご高齢の方がデジタル化を受け入れられていることは素晴らしいことだと思う。

【司会】

それでは本日のタウンミーティングは、これで終了とさせていただきます。事前にアンケート用紙をお配りしているので、ご協力いただける範囲でご記入いただき、ご提出をお願いしたい。